The Clay Science Society of Japan

粘土科学　第49巻　第3号　141－143（2011）

報　告

第54回粘土科学討論会（名古屋大会）報告

笹井　亮
島根大学総合理工学部

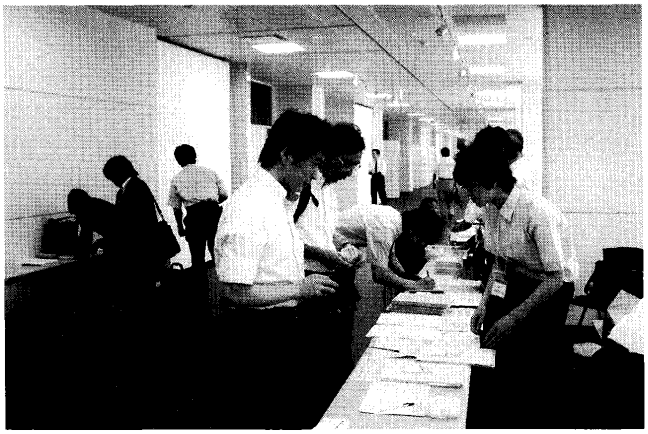
第54回粘土科学討論会（名古屋大会）は，平成22年9月6日に開催されたAsian Clayに引き続き，平成22年9月7日(火)～8日(水)の期間，名古屋大学IB電子情報館(愛知県名古屋市)を会場に開催されました．2日目の午後に豪雨に見舞われましたが，多くの参加者を得て盛況に行われました．討論会への参加人数は160名で(外国籍の方が12名)，残りの内訳としては正会員97名，学生会員34名，非会員が17名でした．登録された一般講演の口頭発表は38件，提案型セッションの口頭発表は3件，ポスター発表は29件で，これに招待講演として会長講演1件，特別講演1件，シンポジウム講演7件がありました．以下順に報告いたします（なお役職名は討論会時点のものです）．

討論会に先駆け前々日の平成22年9月5日(日)には，名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリーで，13時より第3回日本粘土学会若手の会(代表福士圭介会員)が3階ホールにて，15時より平成22年第4回常務委員会が3階会議室にて開催されました．第3回の若手の会については，若手の会ホームページ（http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/fukushi/nenndowakate/nenndowakate.html）に福士圭介氏が報告を掲載しておりますのでそちらをご覧ください．第4回常務委員会では会長，常務委員長をはじめとする常務委員の方々が参集し，審議・報告が滞りなく行われました．

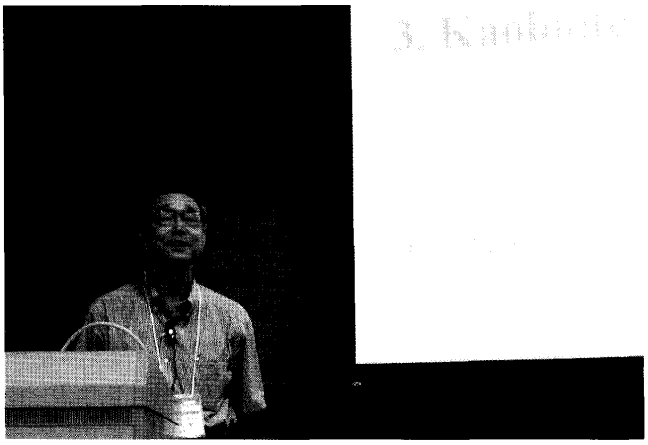
1日目(9月7日(火))は，9時45分からAとBの2会場に分かれ，一般講演の口頭発表が始まりました．受付業務も滞りなく進みました．口頭発表は昨年度より液晶プロジェクターによる発表となりましたが，大きなトラブルもなく予定通り行われました．

昼には平成22年第4回評議員会が開催され，昼食をとりながら審議・報告が予定通り行われました．午後は13時から2階大講義室で岡田清会長（東京工大応用セラミックス研究所・所長）の会長講演「アロフェン，ハロイサイトそしてカオリナイトとの係わり」が行われ，岡田会長の40年にわたる粘土鉱物との係わりと材料研究の一端をご紹介いただき，大変興味深い講演となりました．岡田会長には厚く御礼申し上げます．

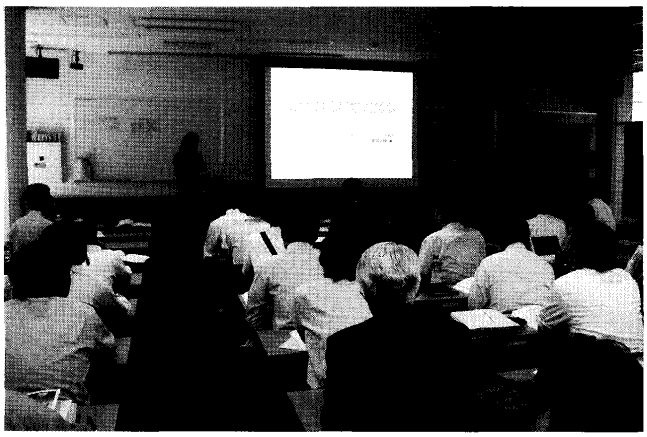
引き続き同会場にて14時10分から片山新太教授（名古屋大エコトピア科学研究所）の特別講演「多孔性微生物資源を用いたハロゲン化有機物の分解浄化技術」が行われました．土壌中に拡散したハロゲン化有機物を微生物の代謝機能を用いて効率よくオンサイトで分解処理するのか，そのためにはどのような技術的課題が存在するの



受け付の様子



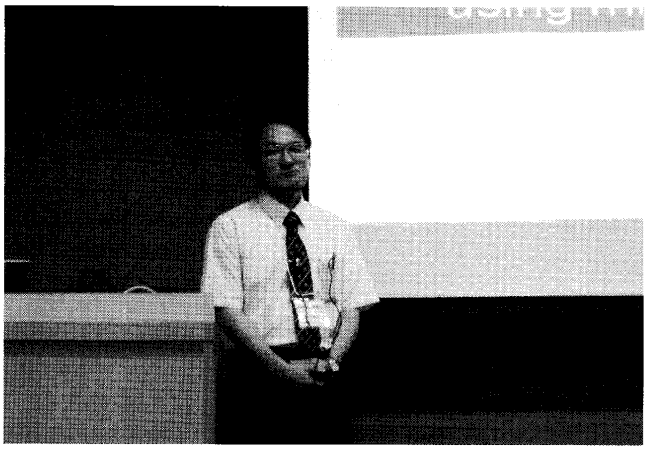
会長講演（岡田　清会長）



口頭発表会場の様子

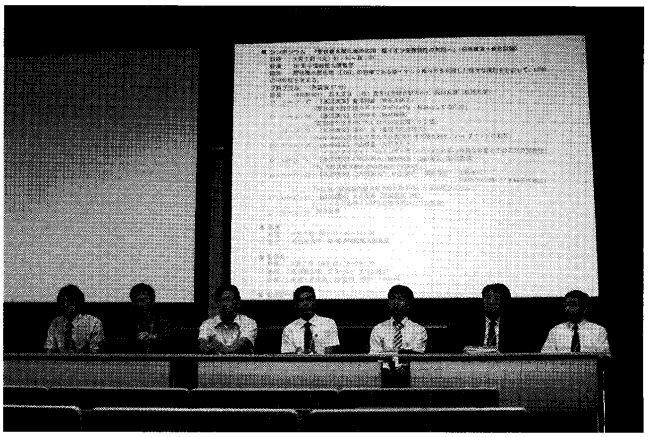
NII-Electronic Library Service

The Clay Science Society of Japan



特別講演（片山新太先生）

ポスター会場風景１



シンポジウム（総合討論）

ポスター会場風景２

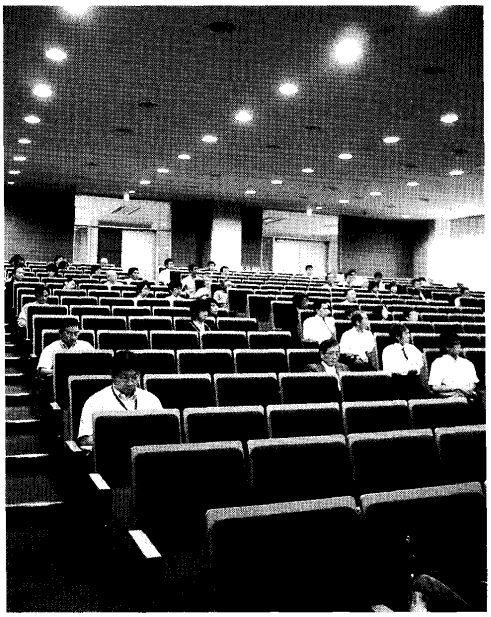
かを分かりやすくご講演いただきました．粘土学会員にとっては普段聞くことの少ない内容であり，新しい知識として興味深くお聞きいただけたと感じております．片山先生に厚く御礼申し上げます．

引き続き15時30分から「層状複水酸化物の応用－陰イオン交換特性の利用－」と題したシンポジウムが行われ，アカデミアから５件，産業界から２件の講演が行われるとともに，総合討論では聴衆との間で活発な議論が交わされました．講演と演者(敬称は省略いたします)は,「層状複水酸化物のドラッグデリバリー材料としての応用」(會澤純雄)，「酢酸緩衝液を用いたLDHの脱炭酸イオン法」(井伊伸夫)，「分子検出特性を示す発光性色素／層状複水酸化物ナノハイブリッドの創製」(笹井亮),「ハイドロタルサイトへのインターカレーションに伴う特異な挙動とその応用の可能性」(中山尋量)，「Fe系層状複水酸化物の合成とその応用」(森本和也)，「NLDH／微結晶性層状複水酸化物を使った水処理システム」(大野睦浩),「ハイドロタルサイト様化合物を用いたリン除去」(大久保彰) でした．今回のシンポジウム企画は，これまでの討論会で行われた提案型セッションの中から選ばれたもので，今後提案型セッションから今回のようにシンポジウムに昇格することが増えてくると思います．会員の皆様，ぜひ提案型セッションの提案をよろしくお願いいたします．また，講演者の方々には感謝の気持ちを込めて例年通り記念品が贈られました．各発表の座長ならびに本シンポジウムを企画された日比野俊行会員，鈴木正哉会員および岡田友彦会員には心より感謝申し上げます．

シンポジウム終了後は，名古屋大学東山グリーンサロン内レストラン「花ノ木」に場所を移して，総勢101名の参加者のもと懇親会が開催されました．岡田会長の挨拶と大日方五郎名古屋大学エコトピア科学研究所副所長の来賓挨拶があり，坂本尚史元会長の乾杯のご発声があり，和やかな歓談と交流のひと時をもつことができました．その間，本討論会で任期を全うされることになる山田裕久常務委員長にアポなしでご挨拶を，次期開催地実行委員長の鹿児島大学河野元治会員から第55回討論会のお知らせとご挨拶を，さらに今回第１回を行ったAsian Clayの招待講演者を代表してJ. Kim教授（韓国）からもご挨拶を頂きました．その後，井上厚行新会長の挨拶の後，実行委員長の名古屋大学鈴木憲司会員が中締めを行い，盛況のうちに終了いたしました．

NII-Electronic Library Service

The Clay Science Society of Japan



総会風景

懇親会風景

討論会２日目は，午前中に一般講演の口頭発表が１日目同様に２会場で行われた後，２階大講義室で総会が開催されました．総会では，冒頭逝去会員への黙祷が捧げられ，次いで岡田会長の挨拶がありました．その後，亀島欣一会員の議長のもとで各種報告と審議が行われ，それぞれ確認と承認がなされるとともに，井上厚行新会長からご挨拶を承りました．そして，学会賞等の授与式では，学会賞，奨励賞，技術賞，論文賞，学術振興基金賞（通常枠・日本－米－スペイン三国国際会議特別枠）の各賞の表彰が行われました．それぞれの内容につきましては，「粘土科学」誌に掲載されておりますのでご覧ください．

総会終了後，12時から平成23年度第１回評議員会と常務委員会が開催され，井上厚行新会長の下，新年度に向けた報告並びに審議が行われました．

13時からは，IB電子情報館1階プレゼンテーションスペースにてポスター討論が行われました．発表件数は29件と例年に比べ少なかったものの，各ポスターの前ではそれぞれの内容に関する有意義な議論が白熱し，活発なものとなりました．

ポスター討論の後，15時30分から再び２会場に分かれて，Ａ会場では提案型セッション「粘土の構造」が，Ｂ会場では一般講演の口頭発表が行われました．今回の提案型セッション（Ａ会場：粘土の構造）では，鈴木正哉会員の座長の下，「ハロイサイトの形態変化に関する一考察」（井上厚行），「雲母－緑泥石混合層構造のXRD解析－花岡鉱山産sericite/sudoite混合層鉱物の再検討－」（東正治），「粘土鉱物の結晶構造と分類」（永田洋）の３講演と総合討論が活発に行われました．以上をもちまして２日間にわたり開催された第54回粘土科学討論会を無事終了いたしました．なお，今回の討論会でも，優秀口頭発表ならびにポスター発表が選出され，受賞者ならびに受賞講演題目に関しては，「粘土科学」誌ならびに学会ホームページをご覧ください．

今回の討論会は，今後の日本粘土学会の国際交流の方向性を決めることとなるAsian Clayに引き続き行われました．Asian Clayに招待されたアジア圏の多くの研究者の方々にも討論会にご参加いただいたことで，例年以上に国際色豊かな討論会となりました．また，一般講演の口頭発表についても討論会という名前にふさわしい充実した討論を行うための新しい試みとして，発表時間を７分と短くする一方，討論時間を７分と長くしました．これに関しては参加者の皆様それぞれ賛否両論あろうかと思いますが，特段トラブルもなく進めることができたことは参加者の皆様のご協力によるものです．この場をお借りして御礼申し上げます．

今回，いくつかの新しい試みの下で討論会が執り行われましたが，このように盛会に討論会を終えることができましたのも運営に携われた方々のおかげです．一般講演で座長を務めてくださった会員，優秀賞選考に当たられた会員，会場の準備から運営まで現地での実務を誠実に取り仕切ってくださいました現地実行委員長の鈴木憲司会員と名古屋大学エコトピア科学研究所鈴木研究室の学生の皆様，またAIST中部センターの渡村信治会員，前田雅喜会員，犬飼恵一会員には，この場をお借りして深く感謝いたします．

最後になりますが，全国各地から名古屋大会にご参加くださいました多くの参加者の方々には心より御礼申し上げます．また，岡田会長をはじめとする常務委員の皆様ならびに事務局の土信田裕子氏には，討論会の実施に向けて貴重なご助言ならびにご支援を賜り，厚く御礼申し上げます．

NII-Electronic Library Service